

【解析学賞】

第4回解析学賞候補者推薦のお願い

“解析学および、解析学に関連する分野において著しい業績をあげた研究者に対し、その業績を顕彰する”目的で解析学賞が設置され、2002年度から運営が始まりました。この賞の授与も既に3回を数えるに至りました。昨年度の第3回の受賞者は、赤平昌文、岩崎克則、西田孝明の3氏でありました。これらの授賞者のうち、赤平氏と岩崎氏の受賞講演が、3月27日から30日にわたって日本大学理工学部において開催されました年会において行われました。また、西田氏の受賞講演は秋季総合分科会において行われる予定です。

第4回(2005年度)の解析学賞受賞候補者の推薦を下記の要領で募集いたしますので、ご推薦下さいますようお願いいたします。(内規により、推薦委員が選ばれることになっておりますが、これは一定数の候補者を確保するための処置であり、推薦委員から推薦された候補者が、選考において優先されることはありません。)

第4回目の受賞者の発表は、2005年度秋季総合分科会の折に行われる予定です。

(1) 対象

過去5年間程度の間、広い意味での解析学に関連した分野において著しい業績をあげた日本数学会会員(この詳細については、「数学通信」6巻2号65ページの解析学賞規程および内規を参照のこと)。

なお、第3回まで被推薦の資格がありませんでした10名の解析学賞検討委員会委員も、今回から推薦される資格があります。

(2) 推薦権者

推薦出来るのは日本数学会会員とする。また他薦に限る。

(3) 推薦書

用紙はA4紙を用い、以下の項目について記載してください。

(1) 候補者氏名・所属・職

(2) 略歴(分かる範囲でよい)

(3) 業績の題目

(4) 推薦理由

(5) 受賞候補としての業績に関する論文リスト

(6) 受賞候補者の業績を良く知っている2-3名の方の氏名、所属、電話番号、電子メールアドレス

(7) 推薦者氏名・所属・職・連絡先

注意. 選考は提出された推薦資料に調査・検討を加えて行われる。例え被推薦者の重要な業績であっても、推薦書に書かれていないものは審査の対象とはしない決まりになっている。従って、推薦書の作成は、十分の注意をはらい、候補者の業績が明確に分かるように作成されることが望まれる。

(4) 推薦締め切り：2005年6月30日

(5) 推薦書送付先

606-8502

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科数学教室内

解析学賞事務局宛

(文責：解析学賞事務局 井川 満)